

方家胡同

中里見, 敬
九州大学言語文化研究院 : 准教授 : 中国文学

<https://hdl.handle.net/2324/1515746>

出版情報 : 日中友好新聞. 第2353号付録 (福岡県連版・文化版第548号), 2015-05-25. 日本中国友好協会
福岡県連合会
バージョン :
権利関係 :

随想 第十四回

春休みに北京での中国語研修に参加した六名の学生が帰ってきた。万里の長城や故宮といった定番の名所に加えて、方家胡同で撮った写真を見せてくれた。瀟洒なカフェで一人一人写真に収まっている。

この紅葉拾楠咖啡廳というカフェ、実は映画「最後の晚餐」（原題・分手合約）のロケ地なのである。かつて北京の城内にあった無数の胡同（細い路地）は、その多くが

オリソピックによる再開発等で取り壊されたが、いまその下町情緒が見直されて、若者に人気のおしゃれな店が並ぶスポットに生まれ変わっているという。方家胡同もそ

方家胡同

中里見 敬

の一つで、学生がそこで飲んだコーヒーは三十元、日本円で六百円相当のこと。

ところでこの映画、メロドラマなのだが、大陸と台湾の人気俳優

が共演し、テンポのよい会話に目を楽しませる料理、モダンな建築と、活気あふれる中国の今が感じられておすすめの商品。これを中国語の授業で見せたところ、後半ずっと泣きとおしの男子学生もいた。この学生たちが三十年後、勉強した中国語は忘れてしまったとしても、みんなでいっしょに映画を見て泣いたことは覚えていてくれるのではないか、とひそかに期待している。

（九州大学言語文化研究院准教授）